

内部ホタルの里を育てる会



活動紹介

■活動場所

内部地区には、波木・北小松・南小松・采女中部・采女が丘の5ヶ所にホタルが生息し、「ホタルを守る会」が組織されています。

■活動日、活動頻度等

ホタルに関する活動は、ホタルの生活史に合わせた年間事業計画を組んで進めています。

■活動内容

- ①4~6月ゲンジボタルの幼虫上陸から蛹化・羽化の生態調査の実施。
- ②同時に内部・内部東小学校へホタルのパネル展示とホタル教室の実施。
- ③各地区ホタルの会によるホタル観察会の実施。
- ④各地区にてホタル飛翔調査と水質調査の実施。
- ⑤各地区的ホタルを守り・育成していくための独自課題の取り組み。
- ⑥①~⑤までの一年間の取り組みを、8月から各地区でまとめを行い、11月の秋のホタルの報告会で発表する。
- ⑦内部地区内の太陽光発電所建設の話は、令和3年の7月に発表がされ、ホタルの会と業者の双方で「ゲンジボタルの生息地を残す」で基本合意し、その後6年度の春には工事完成をさせ、8月には営業運転に入るものです。6年度の取組みは、ホタルの会はホタルの生息地の用水路の調査を、業者側は専門業者による環境調査をおこないました。
- ホタルは年に一回しか発生しないので、この2つの調査は3年間に渡って実施しました。
- ⑧内部東小学校の「ホタル池作り」での、過去3度にわたる終齢幼虫の放流は、①幼虫上陸を行ない（蛹化）、成虫羽化等については、3度とも成功しています。
- また、一齢幼虫をホタル池に放流して、8ヶ月かけて幼虫を育てる事にも挑戦中です。

代表者の想い

現在、内部地区では太陽光発電所の建設やらバイパス道路の建設等、環境破壊の問題が目白押しです。間違いなく生態系や里山が危険にさらされているのは事実です。

しかし、環境破壊に目をつぶったり、あきらめたり、怒っているだけでは内部地区のホタルは守れません。厳しい調査活動、東小学校のホタル池作り、そしてホタルの飼育活動への挑戦等々、内部地区に自然のホタルを残す戦いは続きます。

〈農業体験/5年生の春の田植え作業〉 〈農業体験/秋の稻刈り（刈った稻穂を脱穀作業）〉

